

# 館長のガラストーク

## ■矢野太昭「Yグラス銀爪付き箱」2012年



矢野さんのこの作品はとても小さなもの（高さ6.7cm）です。近づいてみると、糸のように細いレース模様や、褐色や乳白色の色ガラスのパーツが素地の中に斜めにはめ込まれています。天辺には丸いふたが載っています。ここにもレース模様や、金太郎飴を輪切りにしたような模様（フクロウ）が施されていて、独自の極小の美の世界を形作っています。

矢野さんは1980年代にモザイクガラスの制作を始めますが、きっかけになったのは岡山市立オリエント美術館で見た古代ガラスでした。その後も美術館やコレクターとの交流の中で研究を深め、また、松島巖さんのコアガラスの影響も受けながら、全く独自の方法を確立しました。長さ30cmぐらいの吹き竿の先に素地になる透明ガラスを巻きつけ、そこに、予め作っておいた様々なパーツを下からバーナーで焙りながら貼り付けます。それを型の中に吹き込んで成型するのです。

ここには古代のモザイクガラス、コアガラス、ローマ時代（紀元前後）にコアガラスに取って代わった吹きガラスの技法がミックスされています。矢野さんは3種の技法の併用を3本の線の集合に見立て、それを「Yガラス」と名付けました。ご本人は、こんなやり方が古代ガラスと吹きガラスが混在していた紀元前後に実際にあったのではないかという仮説をたてて、それを楽しんでいるようです。

矢野さんはほかにもフレスコ画を描いたり彫刻を制作したりと、多彩な創作活動を展開しています。「Yガラス」の極小の世界は、このような幅広い「矢野ワールド」の一部を成しているのです。

妖精の森ガラス美術館 館長 畠山 耕造

<展覧会情報> 岡山のガラス作家たちPart.2“さまざまな意匠”展2012年9月19日（水）～2013年4月1日（月）

お問い合わせ先 妖精の森ガラス美術館 電話（0868）44-7888



## のびのびひろば

♪ペンギン ペンギン  
氷の上をお散歩して～

## ふれあい遊び&講演会

2月7日、保育参観日!!はじめは、組ごとに親子で一緒に遊びました。

短い時間でしたが、とっても満足そうな子ども達。

その後、保護者は上齋原歯科診療所の澤田弘一先生から『子どもの将来にとっていちばん大事な口の話』について教えていただきました。

多くの感想の中から・・・

きれいな口の中を保つことが  
体の健康にもつながるので、  
親子で丁寧な歯磨きを  
していきたいです。

ジュースを減らすことから  
始めてみます。

は一ながさいたら  
じゃんけんぽん!!

仕上げ磨きは、  
4年生まで!!

パッタン パッタン☆  
おもちつき～



(1歳児)



(2,3,4歳児)



(5歳児)



(香南保育園)